

町長と語るタウンミーティング 議事録(概要)

日 時：令和5年8月26日(土) 10:00~11:00

場 所：いきがい創造センター 多目的ホール(2階)

テーマ：子どもの居場所づくり

参加者：14人(うち、子ども2人 ※ 幼児は含まない)

【司会】

本日は、第1回目の町長と語るタウンミーティングで、テーマは「子どもの居場所づくり」です。

このタウンミーティングは、今年度からはじまった新しい事業で、新しい時代にふさわしい稲美町の姿について、住民の皆様と町長が直接対話をするという形を通じ、意見をするとさせていただくものです。

【町長】

町長に就任以来、いろんな場所にお邪魔をさせていただいて、その場所でお話をしたり、立ち話であったり、しっかりと時間を取ってという形ではなかったがお話を聞かせていただいていた。ただ、いろいろな問題について、しっかりと時間を取って、そのテーマについて、関心ある方々と一緒にお話をする機会をぜひ作りたいと思っていた。私が一方的にしゃべるのではなく、意見交換を通じ、思いを共有していきたいと考えている。

第1回は、「子どもの居場所づくり」をテーマとさせていただいた。皆ができること、変えていかなければいけないことなど、現状を踏まえながら皆さんと一緒に考えていきたい。今後、いろんなテーマについてもやっていこうと思っている。

今日は当事者でもある子どもさんにも来ていただいているので、子どもさんの意見も聞いていきたい。

子どもの居場所と言えば、家庭、学校などがあるが、最近、居場所というと第3の居場所が必要ではないかと言われている。昔は、そんなことを言わなくても居場所はあったかと思うが、皆さんの子どもの頃はどうか。

【参加者】

私が子どもの頃には「居場所」という言葉はなかった。地域や土地の方と過ごし、年上の者が年下の者を助けたりし、居場所については、社会の問題にもなっていなかった。

河原とか藪とかで、いろんなことを年上の者に習って遊んでいた。親の手伝いをするこももあった。年上の者に対するあこがれもあった。

【参加者】

私は、友達がいなくて、いわゆるいじめられっ子だった。でも、放課後は楽しかった。近く

に古墳があって、その近くでザリガニ釣りなどしながら一人で遊んでいた。それが今でいう居場所だったかと思う。

居場所の概念はこの何年か出てきた。居場所という概念に色を付けてきた社会に対する問題意識を、皆で共有しながら、皆で作っていく時代となった。

【町長】

私の子どもの頃にも居場所という意識はなかった。子どもたちは自然に過ごせていたのに、なぜ意図的に居場所をつくらないといけなくなってきたのか。

次に、会場に来てくれている、今の子ども代表に聞きましょう。今は何をして遊んでいますか？

【参加者(子ども)】

公園に行ったり、家でゲームをしたりして遊んでいる。公園は、柵が低いのでボール遊びはできない。鬼ごっこかしている。

【町長】

昔はできたことができなくなったり、ボール遊びにしても、迷惑がかかるからできなくなったりしてきている。「禁止」する前に、どうやったらできるかを考えていく必要がある。子どもにとって楽しい遊びが、どんどん制限されてしまっていることが、昔は普通にあった子どもの居場所がなくなっていく原因だろうか。

昔はできていたことが、できなくなってきたということはあるか。

【参加者】

居場所って何だろうって思ったとき、私にとっての居場所は、近所のおばちゃんたちが家に呼んでくれてご飯を食べたり、親の友だちのところでホテルを見せてもらったり、そういった小さなことも居場所になっていた。なかなか外に出してもらいにくい家庭だったので、そうした身近なところが居場所だった。

禁止ということでいったら、失敗する前に止めてしまうことが多くなった。小さなトラブル、ケガを恐れて、その前に止めてしまうようになった印象がある。

【町長】

私自身の子育てについても、こうあるべき、こうしてほしいという親の勝手な思いがあったり、危ないからやらせないといったこともあったかと思う。

親の立場では、ケガって怖い、ケガはさせたくないと思うか。

【参加者】

先日開催されたこどもフォーラムで話があったが、失敗のできる環境が大切と言われていた。私も親になって、子どもがケガをしそうな場面では、声を掛けてしまっていることを実

感している。だが、失敗体験もさせたいと考えている。

【町長】

家庭の教育方針などもあるが、自身がどうやって育ってきたかが子育てにも大きく影響すると思う。小さな失敗を通して、自分で大きな危険を回避する能力を身に付けて行って欲しい。

先日、川崎市子ども夢パークの所長の西野さんが稲美町に来られた際、稲美中央公園を案内した。遊具が新しく整備をされ、遊具のあるところは人だかりがあるが、自然がいっぱいある木立ちのところでは、子どもが遊んでいなかった。それを見て、「最高に遊べる環境なのに。」とおっしゃられていた。公園の入口付近には、火遊びなどの禁止事項が書いてあるが、どろんこ遊び、水遊び、木登りなど、やろうと思えばできることも、してはいけないと子どもが思ってしまったのではないかな。

【参加者】

私は、「失敗」という言葉が好きではない。ただの経験、体験、事実であって、回りが失敗だと決めてそう表現してしまっている。経験としてみる眼差しがあれば、それは失敗にはならないと思っている。子どもたちの力は無限だ。

【町長】

もし、子どもたちが木登りをしていたら、今の大人たちはどう対応するだろうか。皆さんなら危ないからやめさせるか。

【参加者】

私は、放任主義なので見守る。子どもって案外丈夫で、人工物ではなく、自然の中で過ごすのであれば、意外と大きなケガに繋がりにくいと思っている。

【町長】

木登りをしてはダメとは書いてないが、勝手に木登りしてはダメと思い込んでいないか。子どもたちは木登りをしてみたいと思うか。

【参加者(子ども)】

木登りをやってみたいと思う。

【参加者(子ども)】

木登りはやったことはあるが、あまり好きじゃない。

【町長】

完成された公園だと遊び方は決まってしまうが、何でもやってもいいよという雰囲気をつ

くることが出来れば、自然と木登りもできるようになるのか。

西野さんの言葉で印象的なものがあったので紹介する。「行政には責任が付いて回るが、ついつい危ないからとか、誰が責任を取るのかといった話になるので、すぐに「禁止」してしまう。何でも「禁止」することで、自由が奪われていき、そのようになってしまった状況については、誰も責任を取らない。何が大切かをみんなで考え、それを自由にできる環境づくりが大切だ。」

これは単に役場が環境をつくれれば解決する問題なのか、そこについてはまだ解決していない問題である。

【参加者】

加古大池で SUP*のイベントがあった。池は土地改良区の所有物なので、管理は土地改良区だと聞いたが、釣りも、ウインドサーフィンも、SUP も特に誰の許可も取らずに行っている。自己責任の中で、土地改良区が開放している。公共施設となると稲美町が責任を取らなければならないという考えを、一旦、置いておいて、そこで活動する人にも責任が伴うものであって、役場が一方的に責任を背負い込む必要が本当にあるのかと思う。例えば、一筆書いて、「私はここで責任をもって遊びます。」というような一面もあっていいのかなと思う。環境は整っているのだから、それをどう使うかであって、本当に一人ひとりの意識を変えるなど、目に見えない部分だが、そういう仕組みづくりも大事なのではないか。

【町長】

行政は、臆病になっているところがある。公平を重視しすぎてしまって、大切なことであっても禁止してしまう。そこには行政の勝手な思い込みがあるのかもしれない。皆さんが、「そうじゃないよ。」と言ってくれるのであれば、できることもたくさんあるかと思う。加古大池には、高い柵もないし、禁止の看板もない。大人は自由に遊んでいるが、大人は自分の責任のもとで遊んでいる。子どもたちであっても、安全対策をしっかりとって遊ぶのであれば、子どもたちだけでボート遊びだってできるかもしれない。できれば、そこに見守ってくれる大人がいればいい。

公園だったり、水辺だったり、実現のできる環境があるので、それを活用していく方法を考えたり意識づくりは大切だと考えている。

では、そういう環境をどうやって作っていったらいいか。

社会が大きく変わる転換点があると思うが、子どもの権利、遊び、行動などについて考える人がもう少し増えていくと、社会が変わっていくのではないかと考えている。

私は、そういう雰囲気を変えていくには、どうしたらよいかを考えている。

SUP*…Stand Up Paddleboard(スタンドアップパドルボード)の略称で、専用のボードの上に立ってパドルで漕ぎ進むウオータースポーツ。

【参加者】

町には、子どもにどうあってほしいかとか、どういう体験をさせたいとか、子どもをどういう風に育てたいかというところを言葉にしてもらいたい。それが土台にあったうえで、遊びとか居場所って話になっていくのかと考えている。町としての姿勢が見えたら嬉しい。

【町長】

皆の目標になるようなもの、こういう町を目指しますっていうものが必要とのご意見。

川崎市や明石市には、子どもの権利に関する条例がある。条例は、目標や理念であって、皆でこういう町を作っていくましようということで作っていくもの。条例ができたからといって、いきなりそういう社会に変わるわけではない。

西野さんは、川崎市では2年間で200回の会議を重ね、皆で考えてきたと言っていたが、それだけのパワーが一体どこから生まれてきたのかというと、川崎市のいろいろな人権に関する課題とか問題があったから、住民も行政も動いてきた。

稲美町も、条例を作っていくってはどういうご意見かと思うが、今日は、そういったところも含めてのタウンミーティング。そういった考える場を作りながら、それが子どもの権利に関する条例として出来上がり、それに向かって皆で頑張っていこう、そういった町を作っていくということになれば良い。そういった方向を打ち出していきたいと思っている。

【参加者】

西野さんは、川崎市で条例を作る時に200回の会議をしたと言われていたが、稲美中央公園の遊具を更新するときには何も情報が入ってこなかった。学校では子どもたちの意見を聞くような場面があったようだが、保護者には伝わっていなかった。私は、子育て支援拠点施設の委員をしているが、2年間で4回会議があった。この会議は1時間。発言するのにも限られた人だけ。私たちの意見が取り上げられている感がない。施策には目標があるであろうが、それよりも意見交換の回数を重ねて、賛同者や反対の人の意見も含め、いろいろなところで意見を出し合うことが必要で、広げた風呂敷の意見収集が付かなくなるかもしれないが、それをやってみないといけないのかなという気がしている。

「環境」はあっても、スポーツをやっている子もいるし、お稽古事をしている子もいるし、大人も子どもも暇な時間がない。すぐに何かが変わるかではないので、考える時間をたくさん作っていくしかないのかなと感じた。

【町長】

条例づくりの会議に関して言うと、既に地道な活動をしている人がいるので、そこに集まっている人と、それに加えてもう少し輪を広げていながら話し合いを重ねていったらいいと思っている。条例づくりのためだけに意気込んで会議をするのではなく、公園や遊びの場面など、いろいろな場で意見交換を重ねていくことも貴重。それをまとめられるのであれば、最終的にいい条例ができるのではないかと考えている。目標はつくるべきと考えるが、できることをいろいろなところでやっていく。その中で、これは必要なことだという意識が、他

の人にも広がっていけばと考えている。

【参加者】

私は、自治会に公会堂を借り、月 1 回、こども食堂をやらしてもらっている。他の地域の人からは、1 回でも開催させてもらえるのはありがたいとか、子どもが物を壊すから使わせないという意見もあるようだ。そんな中で、ちょっと目線を変えると、大人は責任が取れるから自由に使えていると思っている。語弊があるかもしれないが、公会堂は共有物であって個人の所有物ではない。引き継がれていくものだと思う。公会堂って、普段から集まるということをしていないと、いざという時に何も機能しないと思う。

【参加者】

私も公会堂でこども食堂を実施しているが、自治会が背中を押してくれた。居場所が何なのかを考えていて、まだ答えは出てないが、昔も田んぼや公園があって、見た目は居場所と言われるものがあった。でも、そこが自分の居場所だったかと言われると、疑問は出てくる。場所や環境があっても、安心できる場ということが大切。どんな眼差しで大人が見守っているかであって、形だけの場所ではないと思っている。

【町長】

私自身も、子どもの居場所に関してはいろんな形があっていいと思っている。これが正解というものはない。行政だけで形を作って、それで終わりではないと思っている。皆さんの力を借りながら、あちこちで子どもたちが安心して過ごすことのできる場所ができればと思っている。そのためには、条例づくりや、既に活動しておられる団体に対し行政として支援をしていくことも必要と思っている。

行政に対し、こんなことをして欲しいといったものはあるか。

【参加者】

私は、明石で公設民営のフリースペースのスタッフをしている。明石市は稲美町よりも大きいので、なかなか声が届きにくいと感じている。それに対し、稲美町は何人かたどれば誰か支援してくれる人に繋がれる。小さな子どものいるお母さんは SNS を通じて繋がっていて、行政が繋がりを作っていく、いろいろな世代、人と繋がれるきっかけを作ったらいいと思う。このタウンミーティングの後に交流できる場を作っても良いし、そうすることで、早くいろいろな人に様々な支援が届くのかなと思う。

【町長】

稲美町は、明石市と比べると行政エリアが狭いので、比較的繋がりやすい状況にあるだろう。だからこそ、もっと気楽に集まり、このテーマを継続的に、いろいろな場で取り上げていくことが大切だと考えている。私も、積極的にこの問題にかかわっていきたいと考えている。

社会が変わるのには、最低限の人数が必要で、同じ考えを持った人がどんどん増えていくようにできればいいと思う。そのためには、何が起きているのかを知ってもらわなければならないし、それに対して話し合いの輪を広げていくことも必要だと思う。

行政として、しっかりと覚悟を決めて取り組んでいきたいと考えている。その一つの形として、いつまでもとは言えないが、話し合いの場を広げながら、最終的に稲美町らしい子どもたちの権利に関する条例が出来ればいいのかと思っています。

【参加者】

「子どもの居場所づくり」のことで、親子で話をした。大人と子どもが話し合いながら出来ることを探し、この場所に居ていいんだと思えるところがあればいいと思っています。今ある場所でも、変えることでそうした居場所にすることが出来ると思う。

【町長】

学校の中でも決まり事はたくさんあるが、子どもたちと先生が考えながら進めていくような、ゆとりのある時間が今は持てていないように感じている。学校以外の部分で、たとえ年に数回であっても、子どもたちがやりたいことをできるような場所を地域の中で作ってあげたらと思っている。それには、行政だけではなく、地域の皆さんの協力が必要となってくるので、一緒に考えていきたい。

【司会】

時間となったので、今日のタウンミーティングはここまでとさせていただきます。

今後のタウンミーティングの運営に役立てていきたいと考えているので、アンケートへの協力をお願いします。

今後取り上げて欲しいタウンミーティングのテーマがあれば、ご記入ください。必ず取り上げられるというものではないが、参考とさせていただきたい。

次回は、11月3日(金・祝)19時から、いきがい創造センターで、テーマを「防災」として第2回目のタウンミーティングの開催を予定している。